

第8節 特筆すべき動物

第1項 オオタカ・ハイタカ

1-1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のオオタカ、ハイタカについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

1-1-1 調査日時及び調査内容

調査は表8-1に示したとおり、平成17年4月及び平成18年1月から3月にかけて実施した。

表8-1 調査日時及び調査内容

| 調査回 | 調査日 | 調査時間 | 調査内容 |
|-----|------------|------------|--------|
| 第1回 | 平成17年4月12日 | 6:30～13:00 | 生息確認調査 |
| 第2回 | 平成18年1月12日 | 6:30～13:00 | |
| 第3回 | 平成18年2月7日 | 6:30～13:00 | |
| 第4回 | 平成18年3月14日 | 6:30～13:00 | |

1-1-2 調査地点

調査地点は図8-1に示したとおりであり、施設と最終処分場計画地を広く見渡せる2地点で実施した。

1-1-3 調査方法

調査は定点観察により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は行動を追跡し、把握することとした。

また、調査にあたっては、8倍程度の双眼鏡と、25～50倍程度のフィールドスコープを用い、さらに、オオタカ等が確認された場合は、無線機を用いて、調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとした。

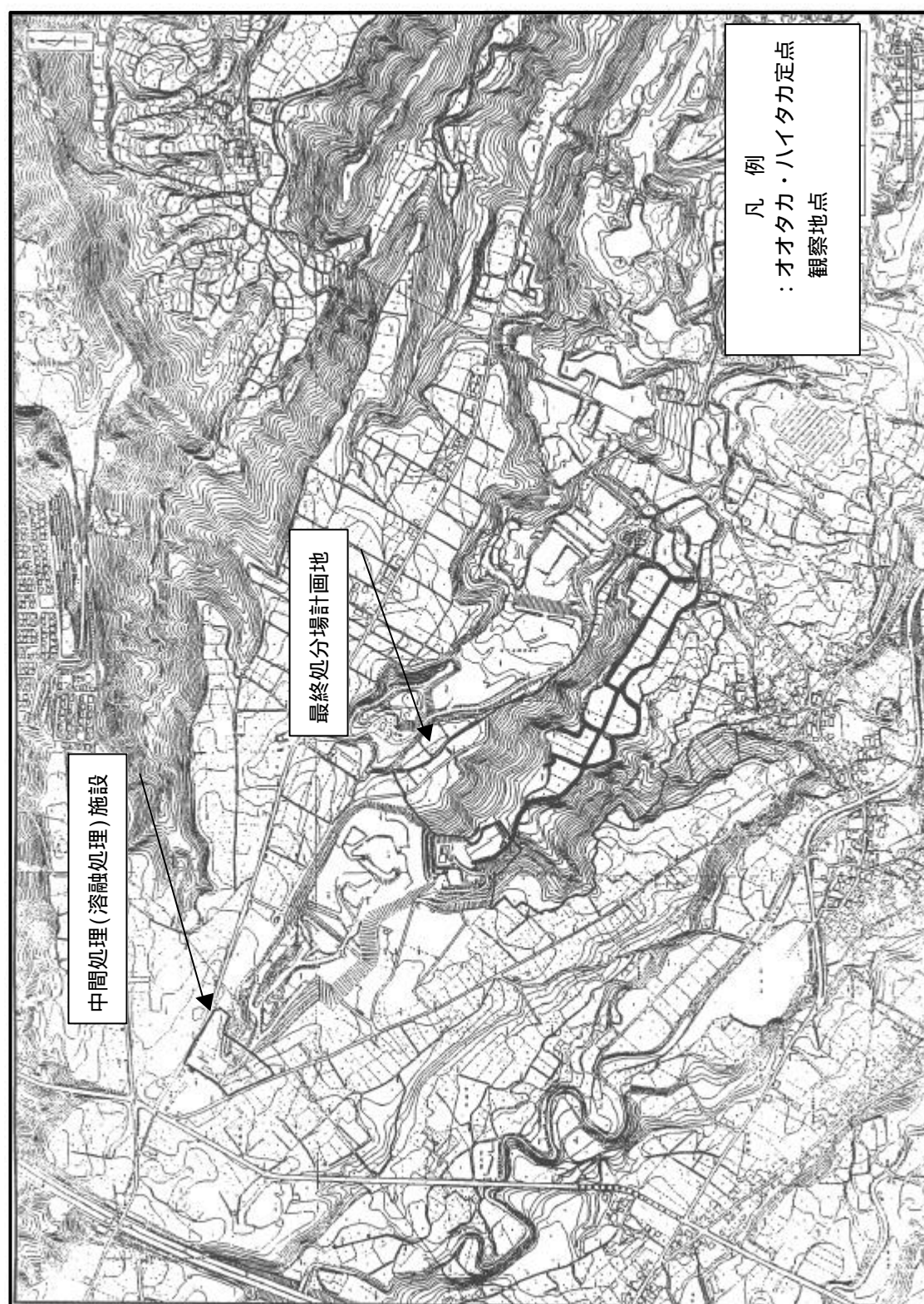


図 8 - 1 オオタカ・ハイタカ調査地点

1 - 2 調査結果

調査の結果、オオタカ・ハイタカとも生息を確認することはできなかった。

1 - 3 まとめ

調査の結果、オオタカ・ハイタカとも生息を確認することはできなかった。

最終処分場計画地の北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用している状況である。

さらに、最終処分場計画地一帯の森林をこれらカラスが^{ねぐら}として多数利用しており、カラス同士のなわばり争いや、他の鳥類（トビ等）への攻撃などが頻繁に行われている状況であった。

このことから、当該地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の繁殖及び生息には適さない環境であると考えられる。

第2項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ

2 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のチュウサギ、タゲリ、サンショウクイについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

2 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査は表8 - 2に示したとおり、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイを6月に、冬鳥であるタゲリを12月に実施した。

表8 - 2 調査年月日及び調査内容

| 調査対象種 | 調査年月日 | 調査内容 |
|---------|-------------|--------|
| チュウサギ | 平成17年 6月14日 | 任意観察調査 |
| サンショウクイ | 平成17年 6月14日 | |
| タゲリ | 平成17年12月20日 | |

2 - 1 - 2 調査範囲

調査範囲は図8 - 2に示したとおりであり、最終処分場計画地周辺で実施した。

2 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

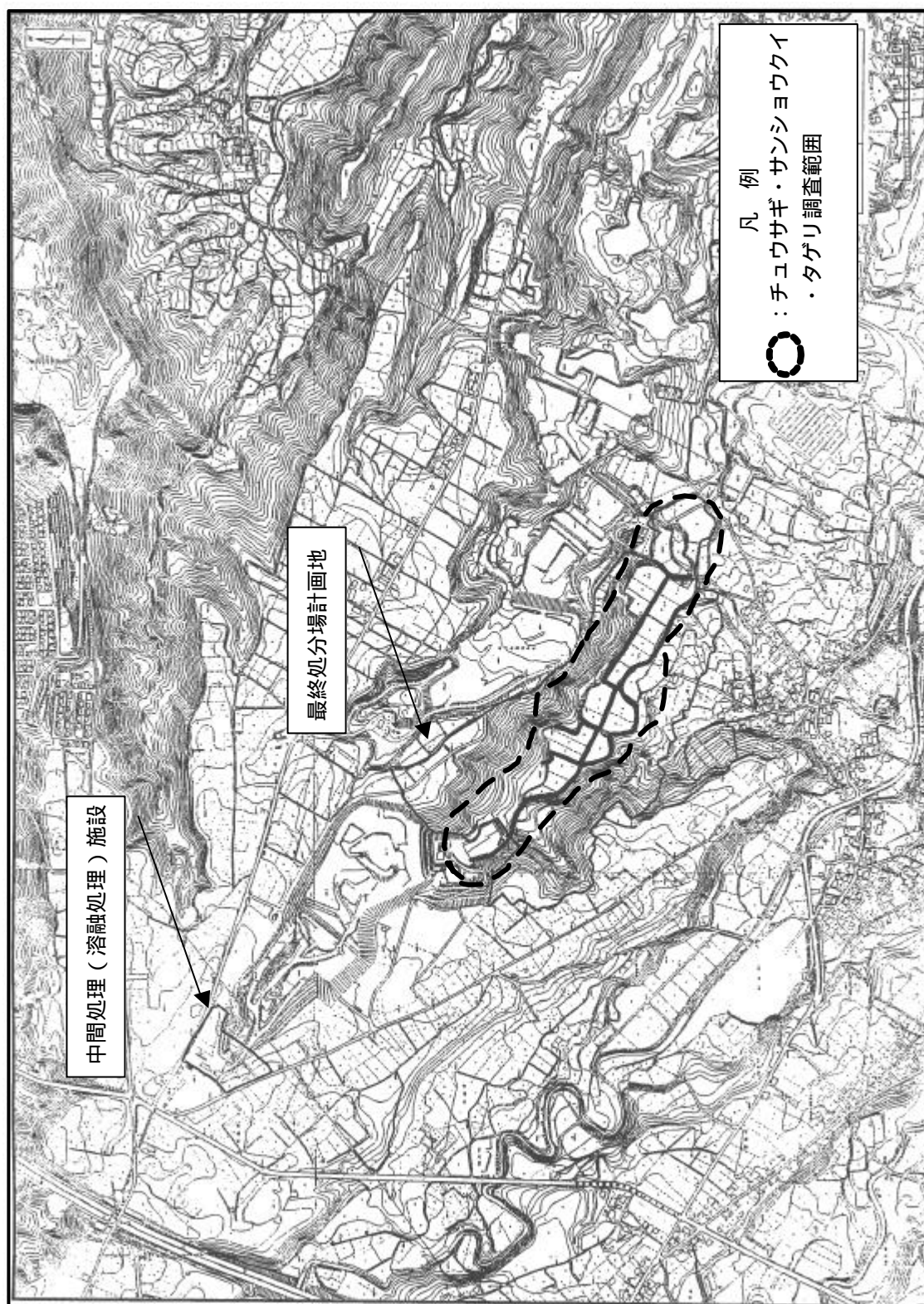


図 8 - 2 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ調査範囲

2 - 2 調査結果

調査の結果、調査対象種 3 種のいずれも確認できなかった。

2 - 3 まとめ

本調査の結果、対象とした 3 種（チュウサギ、タゲリ、サンショウクイ）のいずれも確認できなかった。

これら 3 種について、今回、生息は確認できなかったが、これらの種を確認した現況調査当時と比べ、周辺の環境は大きく変化しておらず、餌場としての環境は維持されているものと考えられることから、今後も飛来する可能性はあると思われる。

第3項 フクロウ

3 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のフクロウについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

3 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表8 - 3に示したとおり、平成17年4月及び平成18年1月から3月にかけて実施した。

表8 - 3 調査日時及び調査内容

| 調査回 | 調査日 | 調査時間 | 調査内容 |
|-----|------------|-------------|--------|
| 第1回 | 平成17年4月11日 | 17:00～21:00 | 生息確認調査 |
| 第2回 | 平成18年1月17日 | 17:00～21:00 | |
| 第3回 | 平成18年2月21日 | 17:00～21:00 | |
| 第4回 | 平成18年3月29日 | 17:00～21:00 | |

3 - 1 - 2 調査範囲及び調査方法

調査は、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心に計画地内を広く踏査する任意観察により実施した。

調査範囲は図8 - 3に示したとおりである。

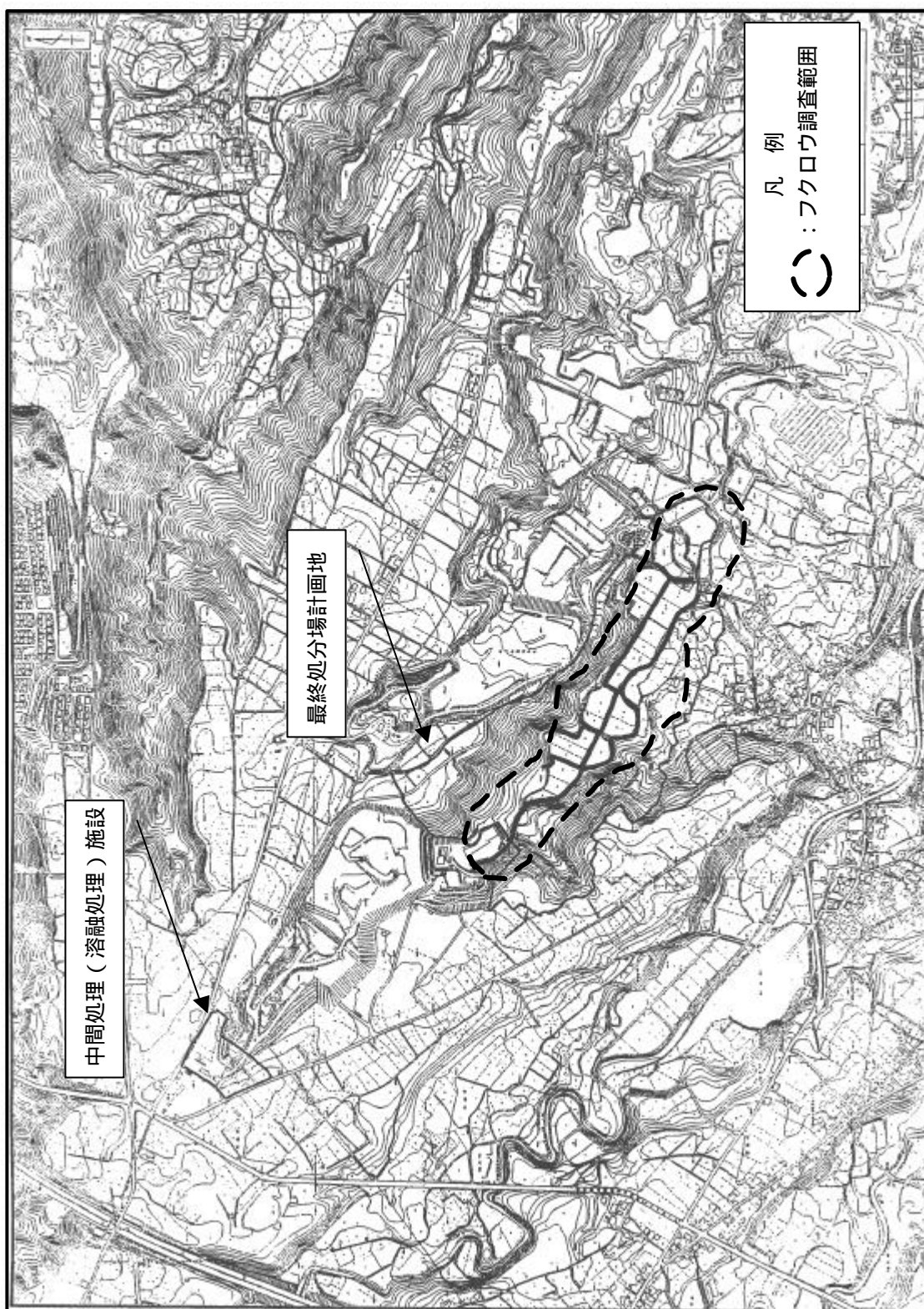


図 8 - 3 フクローウ調査範囲

3 - 2 調査結果

調査の結果、図 8 - 4 に示したとおり、4 月調査時に最終処分場計画地北西側の林内において本種の鳴き声を確認した。鳴き声は 1 回確認したのみで、雌雄の鳴き交わしなど繁殖を示唆する行動は確認できなかった。

3 - 3 まとめ

調査の結果、本種を鳴き声により確認した。

しかし、最終処分場計画地北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用しており、猛禽類の進入する余地がないことと、最終処分場計画地及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられないことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと思われる。

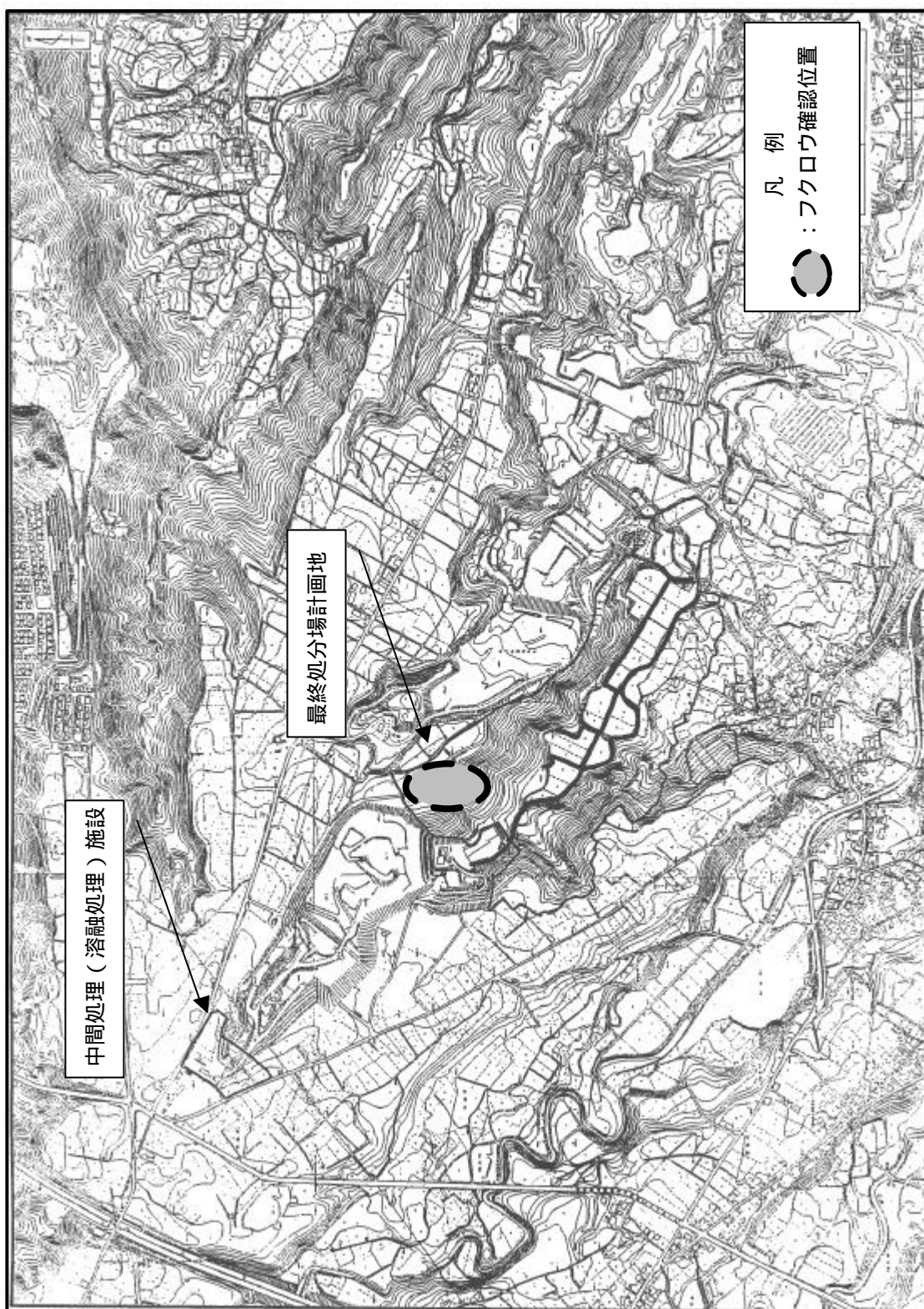


図8 - 4 福岡ウ確認位置

第4項 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ

4 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

4 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表8 - 4に示したとおりである。

表8 - 4 調査年月日及び調査内容

| 調査対象種 | 調査年月日 | 調査内容 |
|--------|------------|--------|
| ハルゼミ | 平成17年5月11日 | 生息確認調査 |
| トゲアリ | 平成17年5月27日 | |
| ムカシヤンマ | 平成17年5月11日 | |

4 - 1 - 2 調査場所

調査は評価書の調査で本種を確認した場所を中心に行った。

主な踏査ルートは図8 - 5に示したとおりである。

4 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めた。

なお、ハルゼミについては、本種の鳴き声を録音したテープの再生により共鳴させる方法で生息の確認に努めた。

4 - 2 調査結果

調査の結果、最終処分場計画地内1箇所においてムカシヤンマの成虫2個体を確認した。

確認地点は図8 - 6に示したとおりである。

なお、ハルゼミ、トゲアリは確認することはできなかった。

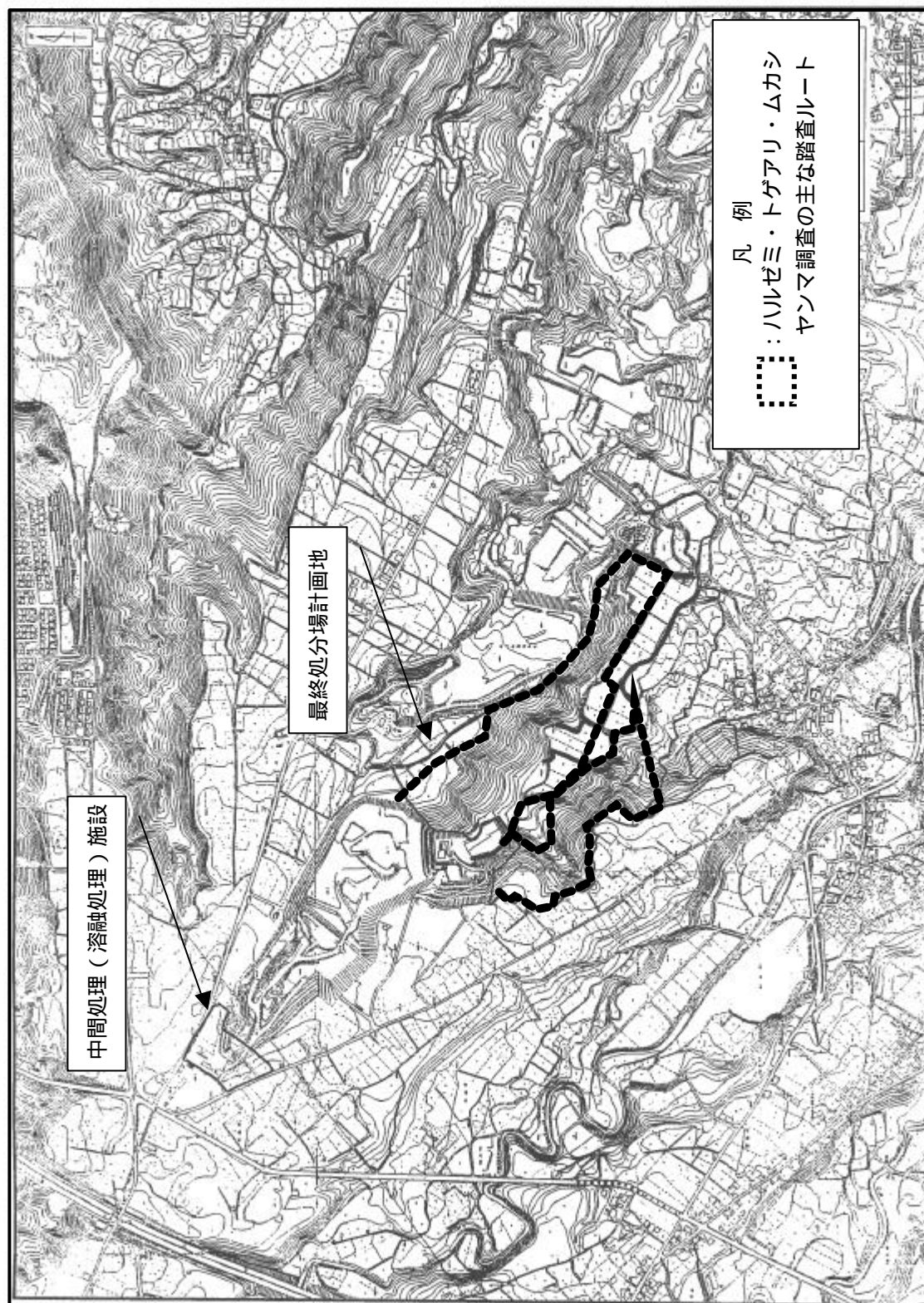


図 8 - 5 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ調査の主な踏査ルート

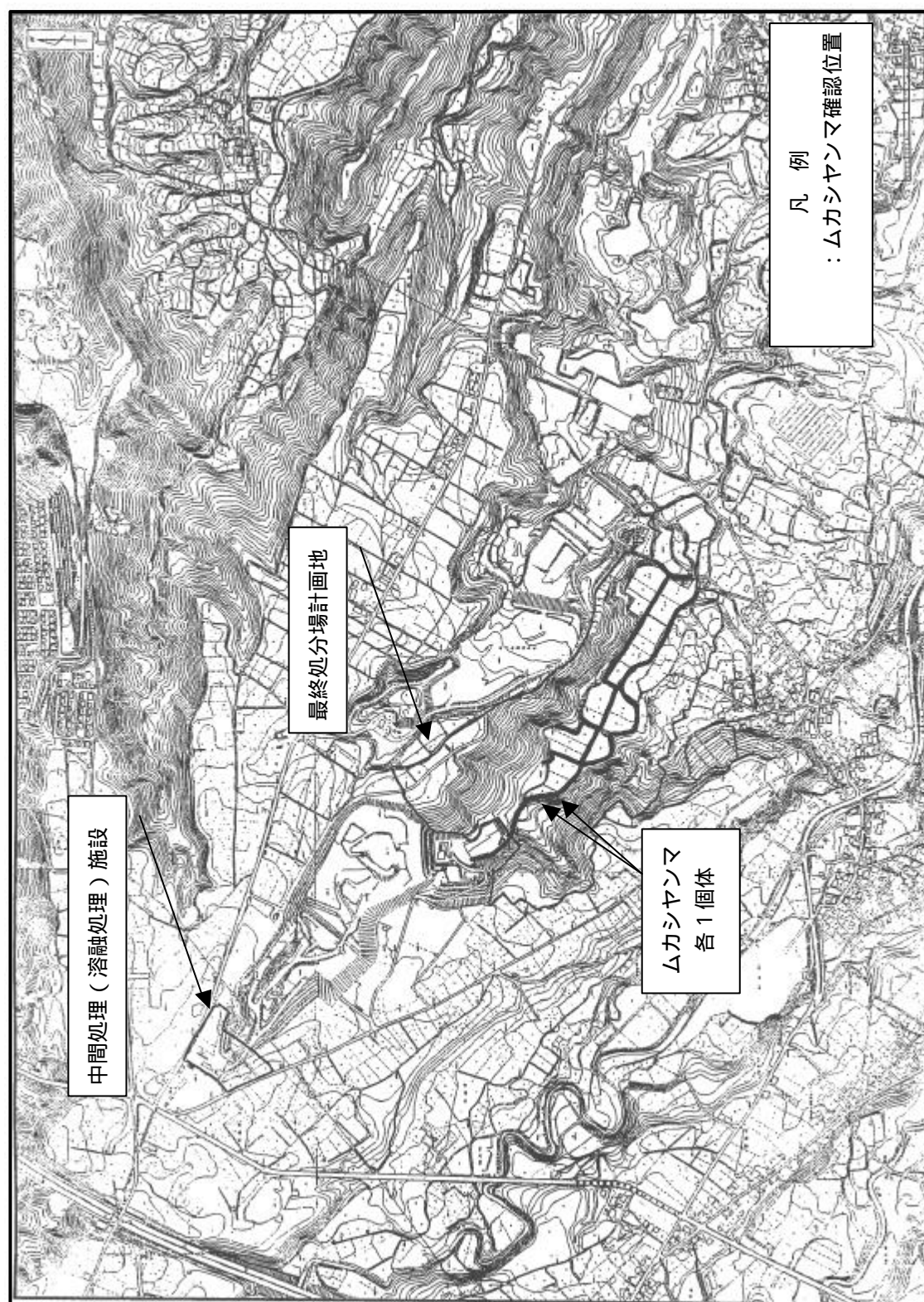


図 8 - 6 ムカシヤンマ確認地点

4 - 3 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした3種（ハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマ）のうち、ムカシヤンマの生息を確認した。

現況調査当時と比べると、ハルゼミについては、生息に不可欠なアカマツのほとんどが枯れていることから、生息数が減少しているものと考えられる。

また、トゲアリについては、生息確認地点の環境が大きく変化していないことから、生息の可能性はあると考えられる。

第5項 ゲンジボタル

5 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のゲンジボタルについて、最終処分場計画地内を流れる天白川周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

また、ゲンジボタルの幼虫及び幼虫の餌であるカワニナの調査も併せて実施した。

5 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査日時及び調査内容は表8 - 5に示したとおりである。

表8 - 5 調査日時及び調査内容

| 調査日 | 調査時間 | 調査内容 |
|------------|-------------|------------|
| 平成17年6月9日 | 20:00～21:30 | 成虫生息確認調査 |
| 平成18年2月28日 | 9:40～15:30 | 幼虫及びカワニナ調査 |

5 - 1 - 2 調査ルート

調査は計画地内の天白川沿いを中心に実施した。

成虫、幼虫及びカワニナの調査ルートは図8 - 7に示したとおりである。

5 - 1 - 3 調査方法

成虫調査は計画地内を流れる天白川周辺を夜間踏査し、飛翔する個体を補虫網等で捕獲し確認を行った。

幼虫及びカワニナ調査は、昼間に天白川及び支川の河川内を踏査し、タモ網等を用いて確認を行った。

5 - 2 調査結果

成虫調査の結果、270個体以上を確認した。

確認位置は図8 - 8に示したとおりである。

確認状況としては、天白川沿いの最終処分場計画地内中央部付近に集中してみられた。

また、冬季に実施したゲンジボタルの幼虫及びカワニナ調査の結果、天白川の最終処分場計画地中央部付近（成虫確認位置）を中心にゲンジボタルの幼虫3個体を確認した。

カワニナは最終処分場計画地内の中流から下流付近に広くみられた。

ゲンジボタルの幼虫及びカワニナ確認地点は図8 - 9に示したとおりである。

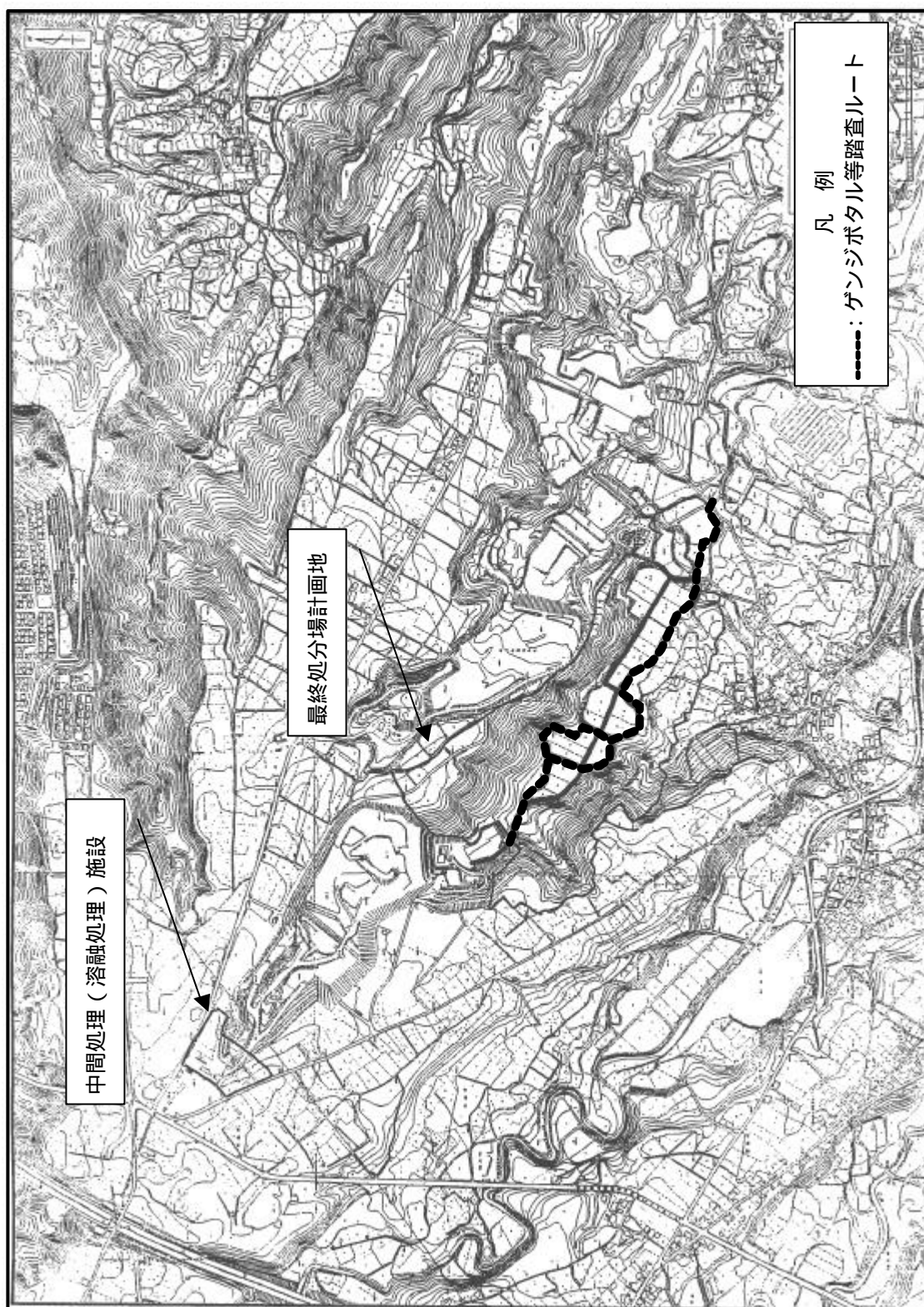


図 8 - 7 ゲンジボタル（成虫・幼虫）・カワニナ調査ルート

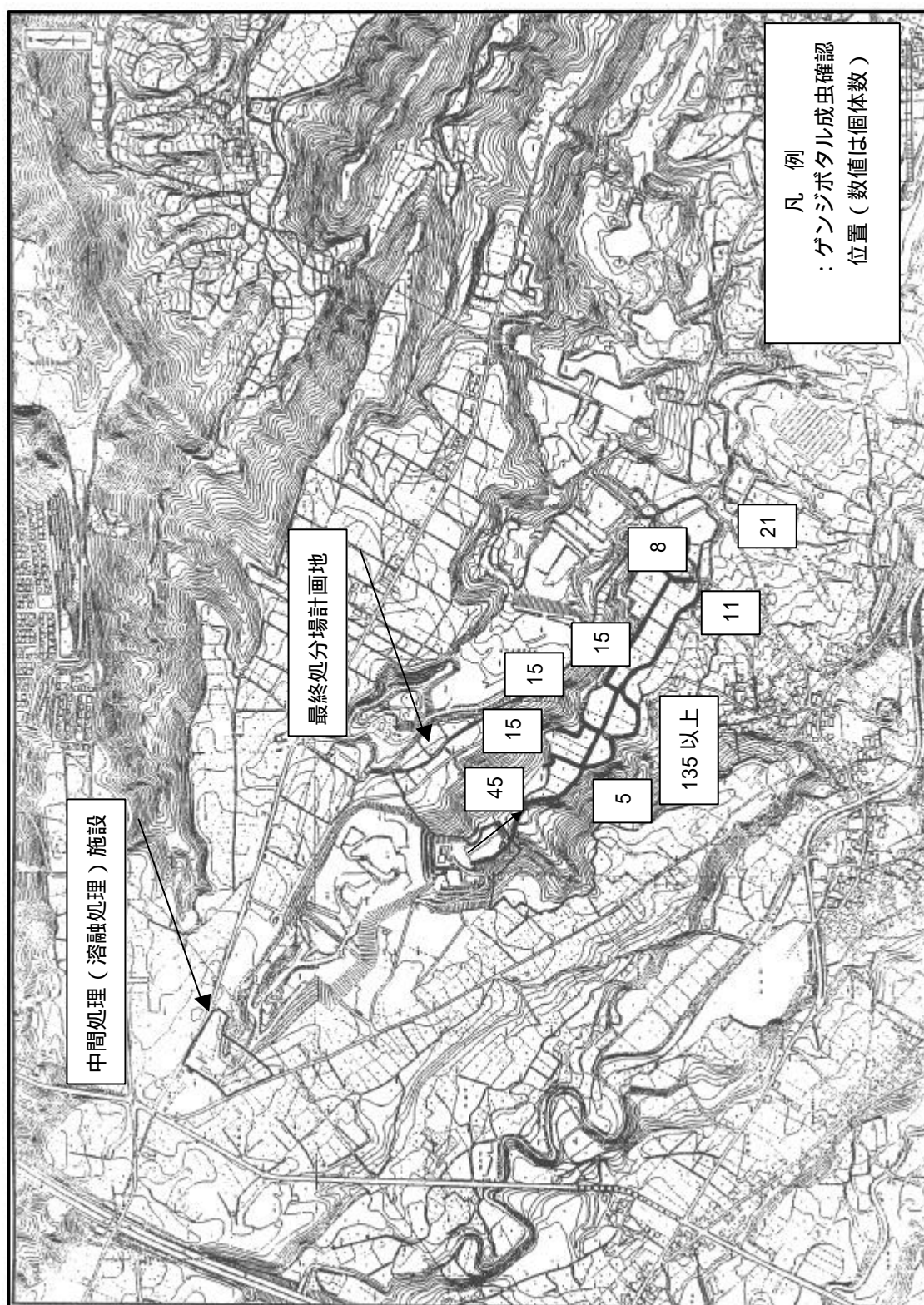


図 8 - 8 ゲンジボタル（成虫）確認場所

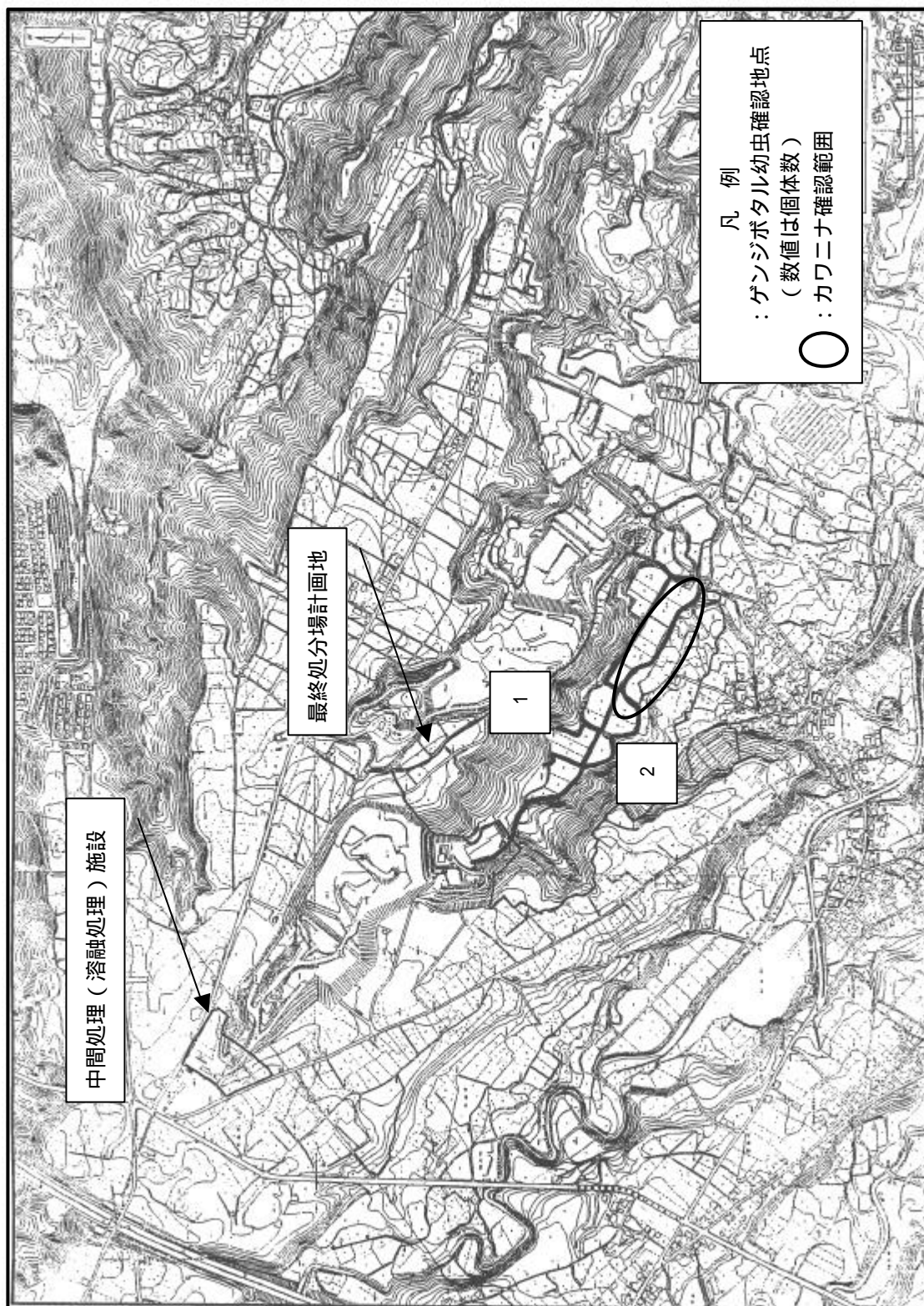


図 8 - 9 ゲンジボタル幼虫・カワナ確認地点

5 - 3 まとめ

成虫については、今回の確認数と昨年度の確認数（600 個体以上）とを比べてみると、今回の確認数（270 個体以上）は、若干少ない結果であった。

また、幼虫についても、計画地内における天白川で実施した調査において、3 個体の確認数であり、昨年度の確認数（12 個体）及び今回の成虫の確認数と比較して少ない結果であった。

なお、本種の幼虫の餌であるカワニナについては、計画地内の中流から下流付近で確認したが、上流付近では確認できなかった。